

論文番号 68

担当

滋賀医科大学 福祉保健医学講座

題名(原題/訳)

Alcohol intake and mortality: findings from the National Health Interview Survey (1988 and 1990)

アルコール摂取と死亡率：国民健康問診調査（1988年および1990年）の知見より

執筆者

Liao Y, McGee DL, Cao G and Cooper RS

掲載誌(番号又は発行年月日)

Am J Epidemiology 2000; 151:651-659

キーワード

飲酒、コホート研究、死亡率、危険因子、性

要旨

アメリカを代表する大規模集団を対象とした前向きコホート研究より、飲酒と死亡率との関係を検討した。この研究の対象者は、もともと、アメリカの国民健康インタビュー調査(回答率96-98%)である。この調査に1988年と1990年にアルコールに関する補充調査が18歳以上に実施された(回答率86-87%)。今回の分析では、40歳以上、男性17,821人、女性25,874人を追跡対象として分析した。死因の同定は、死亡診断による米国死因統計を使用した。平均追跡年は、6年であった。

飲酒と総死亡率との関係は、男性ではU字型、女性ではJ字型を示した。年齢、人種、喫煙と調査開始時の疾病の有無を調整すると、1日あたり2杯飲む男性飲酒者では最も死亡率が低かった(相対危険度0.60)。さらに、婚姻状況、教育、自己健康観を調整しても、0.75と低かった。女性では、1日1杯より少ない飲酒者の相対危険度が、それぞれ、0.69と0.79であった。

Cox比例ハザードモデルを使って、飲酒習慣をカテゴリー化して検討すると、男性の望ましい飲酒量は1日当たり1杯かそれ未満、女性は1杯未満であり、その程度の飲酒量が最も総死亡率が低かった。